

稲沢市障害者計画等策定委員会（第1回）議事録〈要旨〉

日時：令和4年7月26日（火）14時～

場所：第1分庁舎 2階 第2会議室

1. 協議事項

（1）計画の概要について

（2）策定体制及びスケジュールについて

＊＊ 事務局説明 ＊＊

委員： 3年を区切りとした稲沢市の計画ということで、今、辞令をいただいたが、この任期は何年と捉えればよいか。

事務局： 任期はこの策定完了までの2年。来年度末までとなっている。

（3）アンケート案について

＊＊ 事務局説明 ＊＊

委員： アンケートの対象者は、何歳から何歳までを対象としているのか。

事務局： 障害者用のアンケートについては、サービスの利用などについてのニーズについての確認もあるため、障害福祉サービスを利用される方をターゲットとしている。現時点では、障害児の年齢から64歳までの年齢を対象としている。一般市民用アンケートについては、18歳以上の方を対象と考えている。

委員： アンケートの回収率はどれぐらいを目途にされているか。それから何%以上だったらよしとするのか。

事務局： 前回の第6期の計画を立てたときに回収率が47%だったので、5割以上を目指している。若い方たちからも意見を集めるために、インターネットによる回答を可能にした。幅広い年齢層を対象に意見を回収できればよいと考えている。

委員： 対象の年齢で64歳と説明があったので、64歳でサービスの内容が変わってくるということか。

事務局： 障害福祉サービスと同じように、地域で暮らされている方に対してのサービスとしては、65歳以上は介護保険という制度があり、そちらを優先的に使っていただいております。その分野の計画は別にある。障害福祉計画に関しては、サービスを使う年齢層を主たるターゲットに考えているため、このような年齢設定となっている。

委員： 各種世論調査は大体63%から65%ぐらいを目標で、大体実績はそのくらいである。このアンケートでは、一般は50%、障害者はもう少しパーセンテージが上がるような方法はないものか。

事務局： 回収率向上という面では、一番効果があるのは質問数を減らすことだと言われているが、聞きたい質問が多く、なかなか減らせないということもある。そのため、障害者やご家族に記入しやすいようなレイアウト等、見やすくしたりすることで、少しでも回収率を上げることに注力していく。

委員： 障害者用アンケート案の7ページのところに、一般就労のことが書いてあるが、いわゆる一般就労と言われる中にはいろんなものを含んでくる。A型の場合は、雇用契約をするが、A型は一般就労に入るのか。

事務局： 分かりやすい表現に修正し、一般就労の定義を説明しながらご回答いただけるようにしたい。

委員： 一般市民用のアンケートの3ページ、問7のところで「障がい」の「がい」が平仮名ということで、これ自体は障害者の捉え方とか姿勢を示す上で非常に意味があるが、他の箇所とは統一すべきではないか。

事務局： 修正を行う。

委員： 問8で「4. 急病などの緊急時の支援をする」というのが、私自身が答える場合だとちょっと選択しづらいと思った。また、問9で「障害のある方に対する理解についてどう感じるか」は、この回答している人の理解のところを聞いているのか、地域住民とか市民の方に障害のある方が理解されているのかどうかを聞いているのか。

事務局： 回答しやすいよう分かりやすい表現に修正する。

委員： 問36のところで、6番に「医療的ケアなどを受け入れてもらえないことがある。」という選択肢があるが、医療的ケアを提供してもらえないとか、医療的ケアがあるために利用できないというような表現で書いてはどうかと思う。

問37のところは量が多くて、一つ一つ見ていくのが大変だろうなというふうに思う。少し見出しがあったほうが答えやすくなる。

また、問54は、言葉が難しいように感じる。「情報伝達方法の確立」とか「生活支援体制の確立」とかというところももう少し分かりやすい説明が必要である。

最後に、問55で3番に「相談・情報提供」があるが、その2つ目の点の「障害のある人の権利を守るための権利擁護事業の推進」と書いてあるところがイメージしにくい。相談業務の中では意思決定支援が重要と言われているので、そのような意思とか希望を踏まえた相談支援が進むような、そのような書き方がよいと感じた。

委員： 普段、障害者団体として心がけておるのは、印刷物のフォント、大きさ。最低でも12ポイントは必要ではないか。

委員： 障害者はいろいろな障害を持っていると思う。例えばインターネット上でやるならば、拡大してみたり色を変えてみたりとかというような工夫、障害者種別によってそれぞれ分かりやすく理解してもらえたり回答しやすくするというような工夫も要るのではないか。例えばディスレクシアの方のためには少し行間を空け、見やすさを考えた工夫をしていくとよい。

事務局： ご意見ありがとうございます。

委員： 当事者のアンケートの災害時の避難のところ、17ページ。私が見てきた今までの障害の関係、例えばひきこもりの人も含めて、避難に抵抗があったり、避難しようとしにくい、できない、そういうような人に対しての支援も具体的に1つの選択肢として挙げたほうがいい。

事務局： ご意見ありがとうございます。

委員： 障害者用のアンケートのボリュームと内容が多い。最初から支援者というか、家族とかそういう人たちに書かせる想定で作られているのか。あるいは過去のアンケートの実績はあるか。

事務局： 前回はこの20ページほどのボリュームで、回答率は47%であった。今回はネット回答も可能にするので、もう少し上がるといいと考えている。

委員： 回収できなかったその半分ちょっとというのは、もうアトランダムに回収できなかったという考えでいいのか、あるいは知的障害者の人に圧倒的に返ってこなかったとか。

事務局： 前回のアンケートは、身体・知的・精神、発達障害などのサービスを受けていらっ

しゃる方ということで、満遍なく意見が取れるように実施した。今回はほぼ同数のような形でのアンケートの配布をさせていただいた結果として、950件の返答があった。内訳は、身体が298件、知的が237件、精神が202件、重複障害が124件となっている。ある程度、様々な障害をお持ちの方々から満遍なく返ってきたと考えている。

事務局： 無記名で、かつ対象者の方に対してナンバリングをして送ったりしているわけではないので、どうしてもどの障害に関して何通返ってきたというような数の数え方というのとはできない状態である。

委員： 質問内容で、あなたの障害はということは書いてあるので、その返ってきたアンケートがどの障害の範疇の人かということは分かるわけですね。

委員： 問53の災害や地震等というところ、私自体も防災委員会の中に入っており、私たち稲障連もチャレンジドフェスタで災害に対するいろいろ講習をやっている。例えば、家具の転倒防止とかそういったものを勧めても、もう自分はそのまでの力がなく諦めの気分の方が非常に多いのが気にかかる。皆さんの声を聞いたりしているとそういったものが非常に強く感じられる。

委員： 障害の方々には避難行動要支援者名簿にどのぐらい登録されているか。

事務局： 今現在、避難行動要支援者名簿については、身体障害者手帳の1・2級、療育手帳のA判定、精神障害者保健福祉手帳の1級の方を主たる対象ということで名簿に掲載をしている。ただし、掲載について同意をいただいた方のみである。

委員： できるだけ登録人名簿に載せていただくような話を進めていただきたい。

事務局： ご意見ありがとうございます。

委員： 知的障害の人がこの質問を受けて答えるにはかなり難しい。障害児については障害児自身が答えるのか、その保護者が答えるのか。

事務局： 障害者アンケートの表紙に「ご記入にあたって」という説明を記載している。「何らかの事情で御本人が記入できないような場合には、御家族など周りの方が、御本人の意思を尊重し代わってお答えいただきますよう御協力をお願いいたします。」ということで、家族の方の支援を受けながら回答をしていただくことを想定している。

委員： 児童発達支援センターについて、知っているのか知らないのか、興味があるのかないのか、あるいはある程度の説明をしていただいて、それに対してどんなことを望むのかというようなこともアンケートの中に入れていただけるといい。

事務局： 児童発達支援センターについては、子育て支援課のほうが主担当課ということで設立に向けていろいろな準備を進めているところである。設問項目について子育て支援課と協議したい。

委員： 児童発達支援センターというもの自体をどのぐらいの方がこういうことを知っているのかだけでも、質問項目があるといいと思う。

事務局： 項目として入れられないか検討する。

委員： 一般市民用のアンケートの6ページの権利擁護のところの問19、問22のところ、その1、2で答えた人だけじゃなくて、3番の人も、回答の中に入れてもいいと思う。次の問21、問22も同様である。
同様の理由で、障害者本人へのアンケートについても御検討いただきたい。

事務局： ご意見ありがとうございます。

委員： 今の点でいうと、この障害者虐待について発見した人は、通報義務があるというこ

とを知っていても、どこに電話したらいいのかというのが分からない。その辺まで聞いてもいいのではないか。

事務局： ご意見ありがとうございます。

委員： 調査対象者数は1,500人ですけど、年代とか種別もバランスよく抽出することですか。

事務局： ある程度はバランスよく抽出できるようにする。ただ、やはり基本的にはランダムに抽出する形にはなるので、配慮をしながらバランスよく取れるようにということを考えている。

委員： 地域とかがバランスよく取れるといい。

事務局： ご意見ありがとうございます。

委員： 制度、法律、支援の場所等、正式名称をこうしたアンケートで初めて知り、アンケートを答えるたびに、障害児を持つ親としてステップアップしてきた気がする。自由記述欄があり、そこに書くのは大抵愚痴になるが、でも、そういうところで悩んでいることが伝わるものである。

委員： 今の話で、私のところの団体で実施したアンケートでも、自由記入欄はA4で1枚つけています。自由記述をしたい人は相当いるので、できたら1枚つけていただけると親切と思う。

事務局： ご意見ありがとうございます。